

バリ取り機小型化

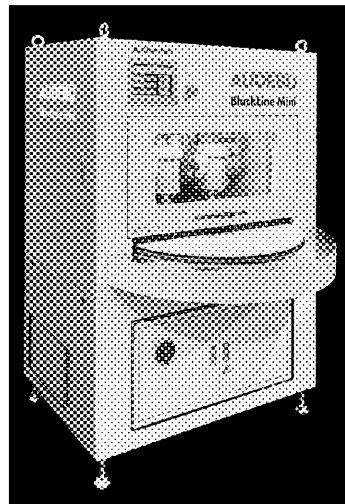
オーセン テック 酸化被膜・ドロス除去

【相模原】オーセンテック（相模原市南区、高田全社長）は、酸化被膜や溶着ドロス除去に特化したバリ取り機「ブラックラインシリーズ」に小型モデルを追加し、10月から受注を始める。既存の工場にも設置しやすいほか、小物の加工対象

物（ワーク）のドロスやバリ除去の作業を一人でできる。価格は消費税抜きで750万円程度。発売後の3年間で100台の販売を目指す。

新モデルの「AUD EBU Black Line Mini」(オーディアブラックライン

ミニ)の写真は、サイズが幅1102mm×



奥行1200mm×高さ1672mm。搬送方法がコンベヤーベルト式のバリ取り機は小物ワークの吸着が難しいため、手作業が多い。新モデルはワ

ークのグリップ力を高めた特殊テーブルにより、吸着プロアを使用せずに小物ワークを固定できる。

2本のディスクブラシの軸を左右に動かす揺動機能により、バリ取りのムラを抑えて仕上がり品質を高められる。集塵機は本体に内蔵し、本体以外の付帯設備は不要。サンディングペーパーやターンテーブルなどの消耗品はユーザーが簡単に交換できる。